

群 教 七	G10 - 01
	平23.243集

# 小学校低学年において働くことよさを 自己有用感を高められる児童の育成

— 補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫を通して —

長期研修員 和地 孝之

## 《研究の概要》

本研究では、小学校低学年において、自己有用感を高められるよう「役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長」の三つの働くことよさを感じられるようにすることをねらったものである。児童の実態を働くことよさを視点として把握し分析することで補充、深化、統合を意図した道徳の時間を構想した。補充、深化、統合を意図したことで、授業のねらいとともに指導の要点が明確になり、自己有用感を高めることにつなげることができた。

**キーワード** 【道徳 小学校 低学年 自己有用感 働くことよさ 補充、深化、統合】

## I 主題設定の理由

今日、産業・経済の構造的変化による雇用の多様化・流動化や若者の社会的・職業的な自立の遅れなどによるニートやフリーターの増加などの問題が表面化している。

平成17年の中央教育審議会答申では、自分に自信がもてず自らの将来や人間関係に不安を抱えている子どもたちの現状が指摘され、自尊感情や自己有用感を高めることの必要性が示されている。改正された教育基本法では、教育の目的を人格の形成とすることや「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度」を養うことなどを求めた。また、勤労に関する内容項目が低学年に新たに加わるなど、正しい勤労観や勤労を愛する心をもつことが重視されている。

小学校低学年は自己有用感を高めるための基盤となる時期で、みんなのために働くことに対して楽しんで取り組み、清掃活動や給食当番など多様な勤労体験を行っている。自己有用感は、目的意識をもったり他者とかがわたりすることのできる勤労の場においては、働くことよさを感じることを通し、満足感や充足感、自信をもつことで高めることができる。しかし、児童は、どの活動にも働くことよさである「役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長」について同じように感じているとは限らない。なぜなら、児童の働くことへの興味や関心は多様であり、必ずしも働くことよさを意識して取り組んではないからである。この時期に、三つの働くことよさを感じられるようにすることは、将来の社会的自立に向けた勤労観や職業観の基礎を培うために必要である。そのために、働くことよさを視点に児童の実態を把握し、実態に応じて働くことよさを補う、より深める、多様な勤労体験を合わせて考えるなどの指導の方針を明らかにする必要がある。そして、補充、深化、統合を意図した道徳の授業を行うことで、児童の実態に応じた指導の工夫を行うことができ、児童は働くことよさについての価値観を深めることができる。また、道徳の時間でとらえた働くことよさを日常の清掃活動や係活動などの勤労体験につなげることで、さらに働くことよさを感じ自己有用感をもちことができると考えた。

そこで、小学校低学年において補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫をすることで、働くことよさを感じ自己有用感を高められる児童の育成を図ることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校低学年において、働くことよさを感じ自己有用感を高められる児童の育成のために、補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫を行い、道徳的实践に結び付けていくことが有効であることを明らかにする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 小学校低学年において働くことよさを感じ自己有用感を高められる児童の姿とは

自己有用感とは、集団の中で自分が大切な存在であることを認識することであり、みんなの役に立っている満足感や喜ばれることで得られる充足感、自分に対する自信をもつことで高めることができる。また、他者とのかかわりがある勤労体験は、満足感や充足感、自信をもつことができ自己有用感を高めることができる。そこで、小学校学指導要領道徳編に示されている内容項目4-(2)「働くことよさを感じて、みんなのために働く」の指導上の留意点に基づき、働くことよさを「役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長」の三つ

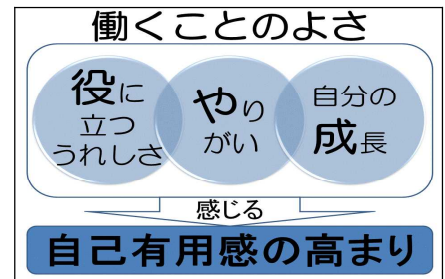


図1 働くことよさと自己有用感

ととらえ、これらを感じることは自己有用感を高めることにつながると考えた(図1)。さらに、道徳の時間で高まった働くことよさを感じる力を道徳的实践に生かし、実際の勤労の場面で働くことよさを実感することで、みんなの役に立っている満足感や喜ばれることで得られる充足感、自分に対する自信をもつことができ、自己有用感を高めることができる。

##### (2) 勤労の道徳的価値における補充、深化、統合とは

働くことよさを児童の実態に応じて補ったり、深めたり、あるいは、関連付けて新たな感じ方や考え方をもてるようにしたりすることである(図2)。三つの働くことよさが補充されている児童の実態が基盤となり、深化や統合を意図することができる。なぜなら、三つの働くことよさが感得された幅広い多面的な見方ができることで、働くことよさについてより深く考えることができたり、勤労にかかわる体験を関連付けて考えることができたりするからである。

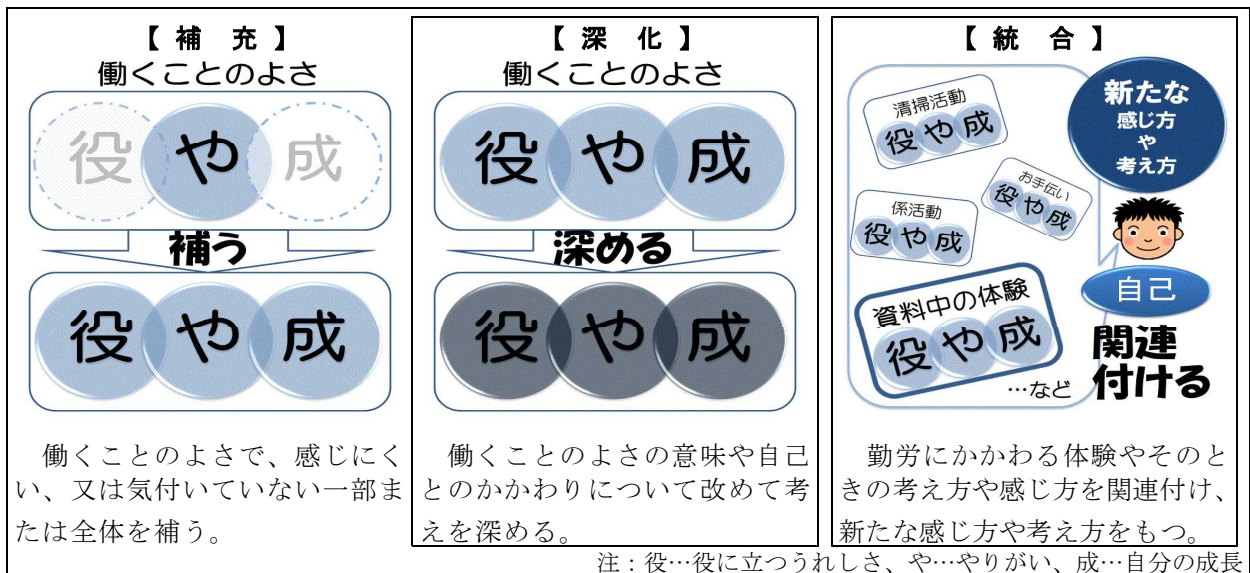


図2 勤労の道徳的価値における補充、深化、統合を意図した道徳の時間

#### 2 補充、深化、統合を意図した道徳の時間について

##### (1) 補充、深化、統合を意図するためには

道徳の年間指導計画や全体計画の別業などで指導の内容を事前に確認し、働くことよさの三つの視点から観察したりアンケートを行ったりすることで、児童の実態をより詳しく把握することができる。実態を把握することで補充すべきこと、また、統合や深化すべきことを分析することができる。補充、深化、統合を意図した道徳の授業を行うことができる。

児童の実態の把握や分析の際には「みとりカード」を作成した。「役に立つうれしさ」「やりが

い「自分の成長」の三つの働くこと  
のよさを感じている様子に加え、働  
くことのよさが補充、深化、統合さ  
れている様子を示してある（図3）。  
それにより、実態の把握や補充、深  
化、統合を意図する際の分析の視点  
とすることができる。また、「児童の  
実態の記述欄」に見取った児童の姿  
を記入することでとらえた学級の実  
態を基に、補充、深化、統合を意図  
した授業を構想することができる。

みとりカード・清掃活動【低学年】

		働くことのよさ		
		【役に立つうれしさ】 人のためになること を意識することで感じ る。 ・友達のため。 ・その場所を使うみんなのため。 …など	【やりがい】 活動自体によさを見 いだしたり、他者から認 められたりすることで感 じる。 ・ほめられる。 ・お礼を言われる。 ・そっかんがけが楽しい。 ・きれいになるのが気持ち がいい。 …など	【自分の成長】 前向きに取り組める、 上手になるなど以前と 比較することで感じる。 ・最初はいやでも、取り組むと 気持ちがいい。 ・つじをするのが、上手にな った。 …など
補 充	価値をとらえ ている様子	清掃活動は友達のため になるのだな。	清掃活動をすると、きれ いになって（ほめられて）い い気持ちになるのだな。	一生懸命に清掃活動をす ると、前向き（上手）に取 組めるようになるな。
	児童の実態 の記述欄			

図3 みとりカード(部分)

(2) 補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫について

資料選択や発問の工夫など、道徳の授業における指導の工夫（表1）のことである。

補充、深化、統合を意図するという事は、児童の実態に応じ働くことのよさを補充するのか、  
深化するのか、統合するのかという授業のねらいが明らかになるということである。それにより、  
補充、深化、統合を意図した道徳の時間において、それぞれ働くことのよさをどのように考えさせ  
たいのかという指導の方針が明確になり、それに基づき道徳の授業における指導の工夫がなされる。

表1 補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫(低学年 勤労)

	【補 充】 とらえる	【深 化】 みつめなおす	【統 合】 ひろげる
指導 の方針	今まで感じにくかったまたは 気付いていなかった働くこと のよさをとらえることで、 そのすばらしさを感じることが できるようにする。	働くことのよさや価値観の 多様性を知り自分の価値観を 見つめ直すことで、深く考え ることができるようにする。	働くことのよさについて資料 以外の勤労体験にも広げて 考え、新たな感じ方や考え方 をもつことができるようにす る。
資料 選択 の 工夫	三つの働くことのよさをとらえられ る資料 (価値を補うため)	日常体験が描かれている資料 (身近な体験を通して深く考 えるため)	日常であり体験しない勤労体 験が描かれている資料 (どの勤労体験にも働くことの よさがあることに気付くため)
発問 の 工夫	感得した働くことのよさを整理 する発問 (中心場面後)	多様な考えを引き出したり考え を深める発問 (中心発問)	多様な勤労体験から、働くこと のよさを見付けだす発問 (展開後段)
○ 主 な 指 導 の 工 夫 例 ( 意 図 )	○ねらいとする道徳的価値につ いての方向付け (主体的に考えようとする心 構えをつくる)	○資料と同様に勤労体験の想起 (資料の主人公と自分を重ね あわせ、価値や自己を見つ め直すことにつなげる)	○勤労場面の絵や写真の想起 (多様な働く場や人を想起し、 それぞれ関連がありそうだ ということを感じる)
	○三つの働くことのよさを整理し た板書 (三つの働くことのよさを整 理して示すことで、働くこ とのよさ「自分の成長」を とらえやすくする)	○多様な価値観が表れる発問や 話し合い活動の充実 (他の考えを比較すること により、自分の価値観を見つ め直す)	○三つの働くことのよさを整理し た板書 (働くことのよさを視点に後 段で様々な勤労体験から働 くことのよさを見付けだす ことにつなげる)
	○補う価値を感じた体験と心情 の想起 (自己の体験にも今まで感じ ていなかった働くことのよ さがあることを想起し、そ のすばらしさを感じ取る)	○資料と同様の勤労体験の想起 と意見の交流 (資料で深めた考え方を基に、 自分の感じ方や考え方を交 流することで自己の価値観 を見つめ直す)	○多様な勤労体験から働くこと のよさを見付けだす発問 (どの勤労体験にも働くこと のよさがあることに気付 き新たな感じ方や考え方をも つ)
終末	—	—	—

注：本研究では、道徳の時間の指導過程を、「導入、展開前段、展開後段、終末」とした。

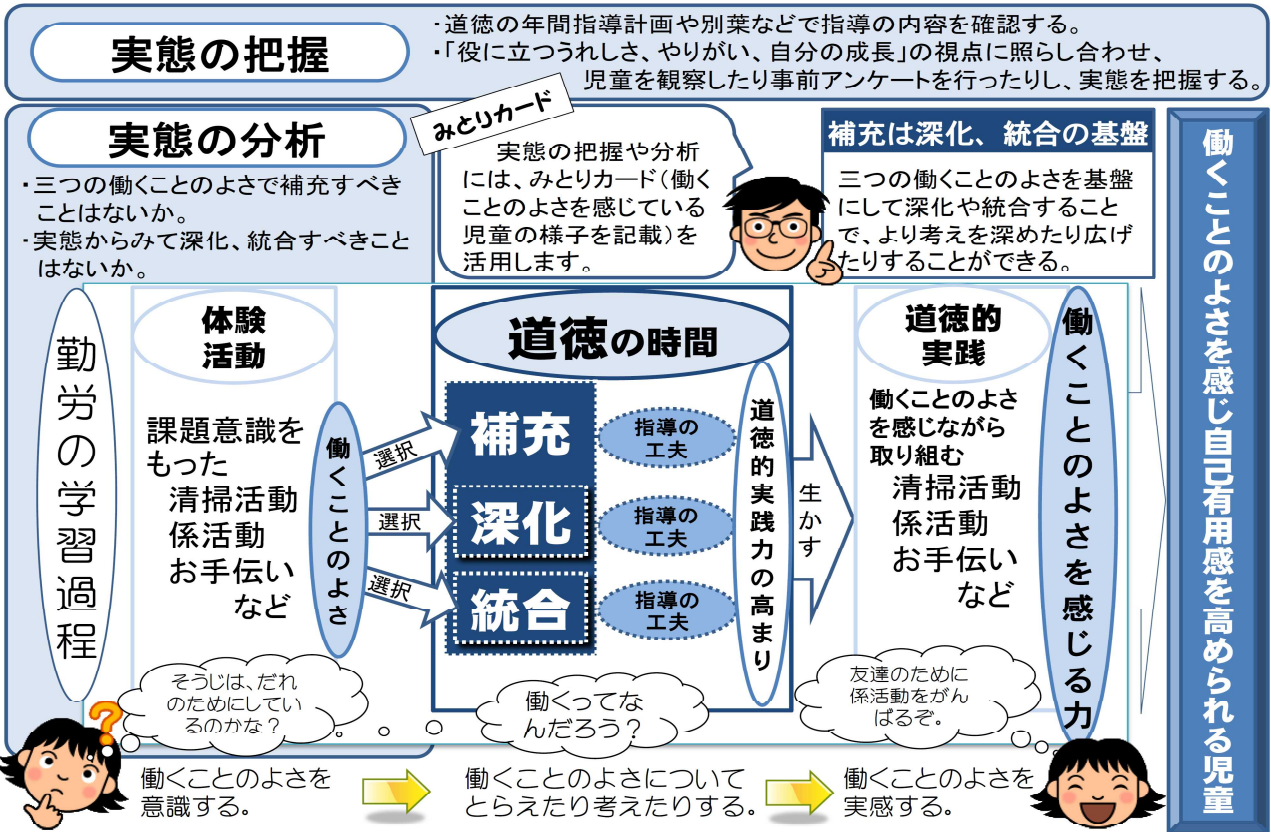


図4 研究構想図

IV 研究の計画と方法

1 実施計画

対象	研究協力校 小学校一年生	研究協力校 小学校二年生	
実施期間	平成23年10月	平成23年10月	平成23年10月
学習過程	体験活動(お手伝い) 補充を意図した道徳の時間 実践活動(お手伝い)	体験活動(係活動) 深化を意図した道徳の時間 実践活動(係活動)	体験活動(清掃、係活動他) 統合を意図した道徳の時間 実践活動(清掃、係活動他)

2 検証計画

検証の場面	検証の観点	検証の方法
補充、深化、統合を意図した道徳の時間	補充、深化、統合を意図した道徳の授業を行ったことは、道徳的実践力を高めるのに有効であったか。	○観察 ○ワークシートの記述 ○抽出児の観察
	補充 今まで感じにくかった、又は気付いていなかった働くことよさについてとらえ、すばらしさを感じている。	
	深化 働くことよさや価値観の多様性を知り、自己の価値観について見つめ直し深く考えている。	
	統合 働くことよさを多様な勤労体験にも広げて考え、新たな感じ方や考え方をもっている。	
道徳的実践	高まった道徳的実践力を生かして道徳的実践に取り組み自己有用感を高めることができたか。	○観察 ○抽出児の観察
	補充 道徳の時間にとらえた働くことよさを生かして勤労の体験に取り組んでいる。	
	深化 道徳の時間に見つめ直した働くことよさや自己の価値観を生かして勤労の体験に取り組んでいる。	
	統合 多様な勤労体験に目を向け、新たな感じ方や考え方をもち勤労の体験に取り組んでいる。	

## V 結果と考察

授業実践において協力校一、二年生を対象に「みとりカード」を活用したアンケートや観察などによる実態把握を行った。その結果、一年生においては働くことのよさのうち特に自己の成長についてとらえていない実態から補充を意図した道徳の授業を行うことが有効であると考えた。また、二年生においては三つの働くことのよさをとらえている実態から、深化や統合を意図した道徳の授業を行うことが有効であると考えた。

### 1 補充を意図した道徳の時間を中心とした学習過程

#### (1) 実践の概要(一年生)

年間指導計画や別葉などで本時までの指導を確認すると、4-(2)の内容項目に関して道徳教育全体を通して考える機会が少ないことが分かった。また、「みとりカード」に照らし合わせて作成した保護者や児童へのアンケートによると、93%の児童が洗濯物の片付けや食器運びなど家庭でのお手伝いに取り組んでいることが分かった。さらに、児童への質問「はたらくことのよさってなんだろう」に対する

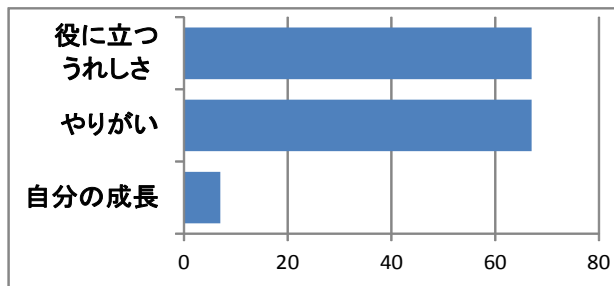


図4 児童へのアンケート結果

回答を「みとりカード」の働くことのよさの視点に基づき分類した(図4)。その結果、三つの働くことのよさで結果が低かった自分の成長について特に補う必要があると考えた。

授業づくりの方針として、お風呂掃除を通して主人公が感じた働くことのよさを分かりやすくとらえることができるようにした。具体的には、三つの働くことのよさを「かぞくのため・よろこんでもらえる・じょうずになる」の三つのキーワードにして児童の考えを分類して示す工夫などを行った。そのことにより、今まで自分が感じていた働くことのよさの他に、新たに働くことのよさを感じることができると考えた。

#### 指導計画 「補充を意図した道徳の時間」 一年 10月13日

主題名	ぼくにまかせて 4-(2) 勤労
資料名	おふろばそうじ 出典「道徳教育推進指導資料1(一部改変)」文部省
ねらい	お手伝いをすることのよさは「かぞくのためにはたらく・よろこんでもらえる・じょうずになる」ことで感じられることに気付き、お手伝いをしようとする心情を高める。
展開の概要	
	<div style="text-align: center;"> <p>働くことのよさ</p> </div>
導入	<p>1. お手伝いに関する経験を発表する。</p> <p>○指導上の留意点 <b>補充を意図した工夫は太字</b></p> <p>○ねらいとする道徳的価値についての方向付けをするとともに主体的に考えようとする心構えをつくるために、お手伝いでうれしさを感じた経験を聞き、働くことのよさの視点に基づき分類する。</p>
展開前段	<p>2. 資料「おふろばそうじ」を読んで、話し合う。</p> <p>○働くことのよさについてとらえさせるために、<b>おふろばそうじが大事な仕事だと思ったあきらの心情について考えることができる発問を行う。</b></p> <p>○お手伝いをすることのよさを分かりやすくとらえることができるように、<b>板書された児童の意見を「かぞくのため・よろこんでもらえる・じょうずになる」のキーワードにしてまとめる。</b></p>

展開後段	3. お手伝いについて今までの自分を振り返る。	○自己の体験にも「自分の成長」があることに気づき、そのすばらしさを感じることができるよう にそのときの <b>心情を想起させる</b> 。 ○「自分の成長」をとらえやすくするために、展開前段でまとめたキーワードをもとに振り返る。
終末	4. 教師の説話を聞く。	○自分では気が付かなかったが、お手伝いを続けていて「上手になった」とほめられた体験について話をする。

授業後は、高まった道徳的実践力を家庭でのお手伝いに生かすことができるよう「お手伝いがんばりカード」を活用して目的意識をもちお手伝いに取り組めるようにした。また、道徳通信を発行し本時の道徳の時間のねらいや学習の様子について保護者に伝え、家庭でのお手伝いの取組について理解と協力を得た。児童は、保護者からほめてもらったり励ましの言葉をかけてもらったりすることができ、自分の成長などの働くことのよさを実感できるようにした。

指導計画 「補充を意図した道徳の時間と関連付けた道徳的実践」 一年 10月21日～27日

活動名	「お手つだいはまかせて」
ねらい	各自がお手伝いに対してめあてをもち取り組むことを通して、働くことのよさを感じることができるようにする。

(2) 検証

〔補充を意図した道徳の時間〕

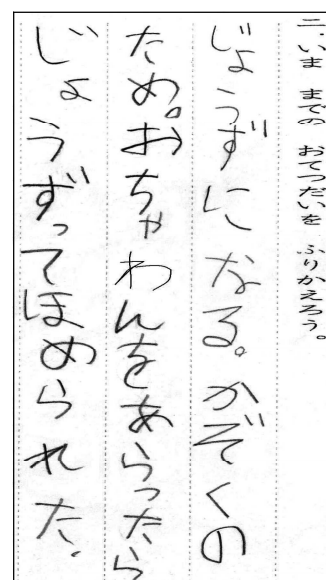
授業中の発言やワークシートの記述から、全員が自分の考えをもつことができただけでなく、中心発問などで、「自己の成長」や「役に立つうれしさ」「やりがい」についての働くことのよさを知り感じることができるようになった。さらに、児童の意見や考えを三つの働くことのよさに照らし合わせて示したり自己の成長を感じた体験と心情の想起をさせたりすることで、68%の児童が自分の経験と重ね合わせて自己の成長を理解していることが分かった（資料1）。児童は、働くことのよさを「かぞくのため・よろこんでもらえる・じょうずになる」のキーワードを基にして発言したり、記述したりしていた。

事前アンケートで働くことのよさを「やりがい」とのみ回答していた抽出児Aは、資料中の主人公の心情を考える場面では、「おじいちゃんやおとうさん、おかあさんおねえちゃんのためにおふろそうじをがんばる」と発言した。また、展開後段においては、「げんかんそうじがじょうずではなかったけど、まえよりもきれいにできるようになった」と発言するなど、自己の成長の視点から自分を振り返ることができていた。

〔補充を意図した道徳の時間を生かした道徳的実践〕

授業後、一週間の家庭でのお手伝い活動「お手つだいはまかせて」では、100%の児童がお手伝いに対してめあてをもちしっかりと取り組むことができたことが、「お手つだがんばりカード」の自己評価欄や保護者の記述欄よりみとることができた。実践後の感想では、「かぞくのためにおさらあらいをがんばった。『じょうずになったね』ってほめられてうれしかった」など、89%の児童が満足感や自信をもつことができた。このように、保護者からの励ましの言葉やお礼の手紙を読むことなどを通して、自己有用感を高めることができた。

資料1 ワークシート



## 2 深化を意図した道徳の時間を中心とした学習過程

### (1) 実践の概要(二年生)

児童は、清掃や給食当番、係活動などに「きれいにするため」「おいしくたべられるようにするため」などの課題意識をもち取り組んでいる。働くことのよさの三つの視点から係活動を観察してみると、めあてをもちやりがいを感じながら取り組んでいるものの、係活動が友達のためになるという視点からはあまり深く考えていない様子がうかがえた。

そこで、アンケートを行ったところ「かかりかつどうをするのは、うれしい、たのしいですか」の質問に対し全員が「うれしい、たのしい」「どちらかというとうれしい、たのしい」と回答した。その理由を、「みとりカード」の働くことのよさの視点に基づき分類した。結果は、「係の活動自体が楽しいから(62%)」「前から今の係活動になりたかったから(15%)」と77%の児童が働くことのよさの「やりがい」について高い関心をもっていることが分かった。そこで、「やりがい」だけではなく「役に立つうれしさ」の視点から改めて深く考えることで、勤労に関する道徳的実践力を高めることができると考え、深化を意図した道徳の時間の授業を構想した。

授業づくりの方針として、働くことのよさを自己とのかかわりで一層深くとらえられるように、資料と自分の体験を重ね合わせて考えることができるようにした。具体的には、日常取り組んでいる係活動を扱った読み物資料を用いるなどの工夫を行った。また、児童からだされた意見や考えを働くことのよさの視点を基に分類して板書し、三つの働くことのよさの視点をもち「役に立つうれしさ」について深く考えたり、働くことのよさや友達の価値観を受け入れ自分の価値観と照らし合わせて深く考えたりすることができるようにした。

#### 指導計画 「深化を意図した道徳の時間」 二年 10月11日

主題名	何のためにはたらくの 4-(2) 勤労	
資料名	のぶくんはポスターがかり 出典「2年生のどうとく」文溪堂	
ねらい	のぶくんの係活動に対する取組の様子や心情の変化について考えるを通して、みんなのために働こうとする心情を深める。	
展開の概要		
	主な学習活動	○指導上の留意点 <b>深化のための工夫は太字</b>
導入	1. 自分たちが係活動をどんな気持ちで行っているかについて考える。	○主体的に考えようとする心構えをつくるために、 <b>資料中で扱われている体験活動と同様の活動について想起させる。</b>
展開前段	2. 資料「のぶくんはポスターがかり」を読んで、話し合う。	○働くことのよさについての考えを深めるために、 <b>価値観が多様に表れる場面で中心発問を行い、友達と自分の意見が似ているところや異なるところなどについて話し合わせる。</b>
展開後段	3. 係活動についての取組を振り返る。	○自己とのかかわりで働くことのよさを深く考えることができるように、 <b>働くことのよさを意識して係活動をしたときの心情や取組の理由について発表させる。</b>
終末	4. 教師の説話を聞く。	○みんなのために働くことは大切であることに気が付いた体験を話す。

授業後は、深まった道徳的実践力を日常の体験活動である係活動に生かすことができるよう「係活動パワーアップカード」を活用し、目的意識をもったり働くことのよさを感じたりして取り組めるようにした。

実践活動 「係活動パワーアップ作戦」

ねらい 係の活動を振り返り、働くことのよさを感じ係活動に取り組めるようにする。

(2) 検証

〔深化を意図した道徳の時間〕

中心発問では、一人の考えをみんなで話し合ったり、友達の意見と自分の意見が似ているところや異なるところを考えさせたりした。そのことで、自分だけではなく他の人の意見も参考にすることができ働くことのよさについての考えを深めることができた。資料中の主人公の気持ちを考える場面では全員が自分の考えをワークシートに記述した。これは、日常取り組んでいる係活動を扱った読み物資料を選択するなどの工夫により、児童が主人公の気持ちに共感することができたためであると考えられる。また、中心発問では児童の意見や考えを働くことのよさの視点を基に分類して板書し、自分はどの意見や考えに近いかを問うことで、児童は自分の価値観を見つめ直すことができた。

ふだんから休み時間などに整頓係として机を整えていた抽出児Bは、事前のアンケートでは、係活動に対して「たのしい、うれしい」と回答しているものの、その理由については記述することができなかった。しかし、授業では「つくえをそろえたり、いすをそろえたりしていると、みんなのためになっている気持ちができる」と発言した。さらに、「みんなのためになっている気持ちができるし、みんなもうれしいし自分もうれしい」とワークシートに記述した。このように、友達の意見や考えと自分の意見や考えを比較したりそれを基に考えたりすることで自分の価値観を深めることができた。

〔深化を意図した道徳の時間と関連付けた道徳的実践〕

道徳の授業後の学級活動では、「係活動は何のために行うのか」について考えた。「三つの働くことのよさから係活動のめあてを考えたい」という道徳的実践力が高まった児童の発言を生かすことで、係活動を見つめ直すことにした。そのことにより、働くことのよさの視点から活動を振り返り新たなめあてを話し合っ決めていくことができた。また、休み時間や放課後などの係活動における実践の場では、意欲をもってみんなのために働こうとする姿が見られた。これは、「係活動パワーアップカード」(資料2)にめあてを記載し毎日の活動を振り返ることにより、働くことのよさを意識することができたためと考えられる。

また、期間中の昼休みに整頓係の抽出児Bと児童Cが昼休みに教室の机を整えていた。そこで、なぜ、整えているのかを尋ねてみると「そのほうが、みんながもどってきたときうれしいって思うかなと思って」と答えた。また、「みんなが見ていなくても、少しはみんなのためになっていると思う」「二人でやったほうがはやいから」とも答えた。それを聞いていた児童Dの「二人は、いつもがんばっているよ。だから、わたしも、自分のつくえをそろえようって思っているよ」という発言を聞くと、抽出児Bは、とてもうれしそうににこにこしていた。このように、係の活動を通して働くことの意義が深まり、喜ばれている充足感やみんなの役に立っているなどの満足感を得るなど自己有用感を高められた様子が見られた。

資料2 係活動パワーアップカード

係活動パワーアップカード

2年 なまえ

自分のめあて *わすれないうちにやろー。せんぶのいじょう。朝はもんごうじょうにしくたいをならべる。*

	10/13 木	10/14 金	10/17 月	10/18 火	10/19 水	10/20 木	10/21 金
よくできた ふつう できなかった							
みんなのためには たらこうという気 持ちをもてた。							
うれしさやたのし さをかんじることが できた。							
めあてをたっせい できた。							

かんそう (10月21日に書いてね)

*みんなのために自分  
のためにもてきま  
せんぶのいじょう  
うしろからわすれないうちにやろー*



### 3 統合を意図した道徳の時間を中心とした学習過程

#### (1) 実践の概要(二年生)

「みとりカード」の統合の観点から児童を観察してみると、児童は清掃活動や係活動などそれぞれの活動に対して課題意識をもち取り組んでいるものの、どの活動においても働くことのよさの視点は共通であることに気が付いていない様子が見られた。また、事前の実態把握では、清掃活動や係活動、お手伝いなどの活動によって取組に対する意欲や態度、働くことのよさの感じ方に違いがある児童が多いことが分かった。

そこで、どの勤労体験にも働くことのよさがあることに気付くことを通し、様々な場面でもみんなのために働こうとする心情を高めさせたいと考えた。そのため、資料を通して理解した働くことのよさを視点に多様な勤労体験を関連付けて考える必要があると考えた。

授業づくりの方針として、資料を通して理解した働くことのよさを視点に多様な勤労体験を関連させて考えることができるようにした。具体的には、導入や展開後段でこのころのノートの様々な仕事の様子が提示されているページを活用するなどし、資料中の体験以外にも多様な勤労体験を想起できるようにした。

#### 指導計画 「統合を意図した道徳の時間」 二年 10月18日

主題名	わたしにまかせて 4-(2) 勤労	
資料名	おもいでいっぱいなのつ休み	
ねらい	出典「小学校道徳 2 みんな たのしく」東京書籍 夏休みに毎朝、歩道橋のごみを拾ったゆき子の行動や心情を考え、働くことのよさを視点に多様な勤労体験をとらえ、みんなのために働こうとする心情を高める。	
展開の概要		
	主な学習活動	○指導上の留意点 <b>統合のための工夫は太字</b>
導入	1. 身の回りには、たくさんの働く場があることを知り、働くことについての様々な思いについて考える。	○働く場面はたくさんあることに気付かせるため、 <b>このころのノートの様々な仕事の様子が記載されているページを提示する。</b>
展開前段	2. 資料「おもいでいっぱいなのつ休み」を読んで話し合う。	○歩道橋をみんなに気持ちよく歩いてもらうために掃除をする高橋さんに共感して、自分にもみんなのために何かできることはないかと考えたゆき子の心情について考える。
展開後段	3. 掃除や係活動など勤労に関する体験活動について話し合う。	○係活動やお手伝い、地域の清掃など様々な体験を想起し関連付けて考えることができるように、 <b>導入で使用したこのころのノートやプール清掃などの写真</b> を提示し、働くことのよさについて考えさせる。
終末	4. 教師の説話を聞く。	○資料中の体験以外にも、働くことのよさを様々な場で感じる事ができた体験を話す。

授業後は、高まった道徳的実践力を様々な日常の体験活動で生かすことができるように、係活動や清掃活動などで、「ありがとう。おかげで黒板がきれいになったね。みんなもきつとよるこんでいるよ」「がんばっているね。うれしいよ」など積極的に声をかけ、児童をほめたり励ましたり認めたりした。

#### 指導計画 「統合を意図した道徳の時間と関連付けた道徳的実践」 二年 10月14日～11月18日

実践活動	日常の勤労にかかわる活動（係活動や清掃活動など）
ねらい	様々な体験の働くことのよさをみつけ、みんなのために働くことができる。

## (2) 検証

### 〔統合を意図した道德の時間〕

展開前段で資料中の歩道橋の掃除について考えた後、「みんながしている係活動や清掃活動と何か似ていることはないかな」と発問すると、「みんなのために働いている」「がんばると気持ちがつつきりする」などと答えた。働くことのよさを視点に多様な勤労体験をとらえることができた。ワークシートの記述からは、体験したことがない仕事やあまり前向きではなかった仕事にも働くことのよさがあることに気付き、周囲の人のために働こうという心情が高まっている様子が分かった。これらは、導入や展開後段で多様な勤労体験を想起させたことにより、係活動や清掃活動などの身近な勤労体験と関連させて働くことのよさを考えることができたからだと考える。

また、体育係だがみんなの前で大きな声で準備体操をすることができない抽出児Eは、中心発問には、「ごみ拾いはうでやこしもいたいからやだな。でも、あきらめずにがんばろう」と答え、自己を振り返る場面では清掃活動を想起して「ろうかをふくのはたいへん。でもがんばってそうじするといい気持ちになる」とワークシートに記載した。さらに、「大きな声で体そうをしなきゃ」とつぶやくなど係活動に対しても働くことのよさの視点からとらえることができた。これは、多様な体験の場を想起したり働くことのよさについて考えたりすることで、係活動や清掃活動を関連付け働くことのよさをとらえることができたためであると考えられる。

### 〔統合を意図した道德の時間と関連付けた道德的实践〕

学校の清掃活動や係活動などの場面では、笑顔で生き生きと取り組む様子が見られた。体育係の活動に消極的でありみんなの前では大きな声で準備体操ができなかった抽出児Eに係活動の様子を尋ねると、「みんなが元気に体そうができるように大きな声をだしているよ。そうじと同じでみんなのためにがんばっているよ」と自信をもって話した。それを聞いていた児童Fもにこにこしながら、「そう、だって、大きい声で体操すると、みんなも大きい声をだしてくれるよね」と言うと、抽出児Eも「うん」と笑顔で頷いていた。これは、清掃活動や係活動などから働くことのよさについて気付いたり感じたりすることができていたためと考える。このように、役に立っている満足感や喜ばれているなどの充足感を得られたことなどから自己有用感を高めることができたと考えられる。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

- 三つの働くことのよさの視点から児童の実態を把握し補充、深化、統合を意図したことで、授業のねらいが明確になり、児童の道德性に応じた授業を行うことができ、働くことのよさについての価値観を深めることができた。
- 補充、深化、統合を意図した道德の時間で高まった道德的实践力を道德的实践に生かすことで、学級全体でめあてを共有することができた。友達同士が互いに声をかけあったり進んで働いたり生き生きと活動した。このように、道德的価値や道德的实践の取組への関心の高まりと共に自己有用感をもつことができた。

### 2 課題

- 補充、深化、統合を意図した道德の時間がより効果的になるよう、多様にある指導方法がもつ特性や効果を十分に生かした授業を行うことが必要である。

### 〈参考文献〉

- ・赤堀 博行 著 『心を育てる要の道德授業 補充・深化・統合へのアプローチ』 文溪堂(2010)
- ・杉田 洋 著 『心を育て、つなぐ特別活動 道德的实践へのアプローチ』 文溪堂(2009)
- ・押谷 由夫 宮川 八岐 編集 『道德・特別活動 重要用語300の基礎知識』 明治図書(2000)  
(担当指導主事 飯塚 俊英)